

下町文化

第 204 号

平成11年3月15日

発行

江東区教育委員会
生涯学習部生涯学習課



塗師の仕事場模型

第3回工匠式番館企画展

漆芸—漆に彩られた世界—

工匠式番館では、第3回企画展として3月20日（土）から4月4日（日）までの期間、「漆芸—漆に彩られた世界—」を開催します。ひとつひとつの木地に繰り返し丁寧に漆を塗っていく技術とそこから生み出される漆製品は、大量生産の現代にあって、伝統的な技術のすばらしさを再認識させてくれます。

展示では、江東区の文化財として登録・指定されている職人さんのワザや製品を中心に、漆と生活との関わりを見ていきたいと思います。

漆塗りは江戸時代以降、諸藩の産業振興の一環として盛んになったもので、次第に日常生活の器物等にも施されるようになりました。

その技術は、建具等を扱う「建具塗師」と食器などの調度品を扱う「道具塗師」に分けることができます。なかでも「道具塗師」は、文箱・菓子器・そば道具など、塗る道具によつて、その内容にはかなりの違いがあります。

例えば、そば道具は使用頻度が高いため、水漏れを防ぐ工程に特色が見られます。

平野榮次副会長逝く

江東区文化財保護審議会副会長平野榮次先生は、去る2月6日に肝臓がんのため、日大駿河台病院で亡くなられました。

故平野先生は、平成4年以来、本区の文化財保護にご尽力くださいましたが、73歳でついに帰らぬ人となりました。（関連記事2

大岩仲治氏 新大橋在住

食器類や文箱などを中心に漆塗りを手掛けています。



〔工程〕

(1) 木地まるめ 木地の本体にサンダーバーをかけ、木地のはぎ目にムギウルシで麻布を貼り補強する。

(2) 布着せ 内側などにコクソウルシを塗り目止めをし、木地の表面に麻布を貼る。

(3) 下塗り サビウルシを塗り、布目を消し、キリコウルシを塗って、砥石でサビトギをする。

(4) 中塗り・上塗り 漆刷毛で何度も漆を塗り重ね、砥石で研ぎだす。

(5) 仕上げ 最高級の漆(生上味漆)を塗り(ツヤツケ)、鹿の角の粉で磨いて完成。

前田 仁氏 石島在住

文箱・茶道具・菓子器などへの

漆塗りを手掛けています。



〔工程〕

(1) 型造り 作品の型を石膏で取る。

(2) 和紙を貼る 糊と漆を混ぜた糊

漆で和紙を型の裏側に貼る。

(3) 布着せ 漆で数回麻布を着せる。

(4) 原型の完成 紙着せ、地付け、切粉付けを数回繰り返して、乾漆の素地が完成。

(5) 型を抜く 内側の石膏を割って型を抜き、縁を削り、形を整える。

(6) 塗り 漆塗りの基本的工程である下地、中塗り、上塗りで行う。

近藤良市氏 東砂在住

蕎麦道具(せいろ・蕎麦釜・釜あげ・湯桶など)、重箱などへの

漆塗りを手掛けています。



〔工程〕

(1) 四隅の強化 四隅の合わせ目にコクソウルシを塗る。

(2) 下地 サビ(トノコと無色の瀬漆を混ぜたもの)を外側に2回塗る(物によっては漆がやせないように紙や布を貼る)。

(3) 柿渋 器の内側に5回塗る。

(4) 中塗り 中塗漆を外側・内側等に塗り、そのつど室で乾燥させる。

(5) 上塗り 着色した漆を塗る。

*それぞれ、各工程で何度も砥石で研ぎを繰り返して、最後には室で乾燥させます。



略歴

大正14年 栃木県に生まれる

昭和25年 日本大学文学部(現文学部)史学科卒業

以来、日本大学に勤務し平成2年定年退職。この間、東京都及び品川・江戸川・大田・北・墨田各区の文化財保護審議会委員を務める。

平成4年

江東区文化財保護審議会委員

江東区民俗調査団団長

平成10年

地域文化功労者文部大臣表彰受賞

主な編著書

『富士浅間信仰』『民間信仰調査整理ハンドブック』など

平野先生を悼む

江東区長 室橋 昭

平野先生のご逝去の報に接し、深く哀悼の意を表します。

先生には、本区の文化財保護審議会委員として、長年にわたってお力添えをいただいたことに對しまして、心より厚くお礼申し上げます。

先生には、主に民俗学を専門に研究され、本区の民俗調査団々長として、また審議会副会長として、文化

財行政に関する多くのご指導、ご助言をいただきました。これからも、先生のご意志を受け継ぎ、本区の地域文化の発展に努めてまいります。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

平野榮次先生の急逝を悼む

教育委員会教育長 桐山 武

本区の文化財保護審議会の副会長として、指導的役割を果たしてこられた平野先生の突然の訃報に接し、未だに信じ難い思いであります。

平野先生の日頃の研究者としての厳しい姿勢と共に穏やかで誠実なお人柄も私共は深く敬愛しておりました。ご専門の民俗分野での数々のご研究、実証的な調査研究を通じ、地域文化に貢献され、その実績が評価され、平成10年には、文部大臣から、地域文化功労者として表彰され、今後のご活躍を期待されていただけに残念でなりません。

殊に、本区民俗調査団長として、本区の民俗調査に当たられ、最近では、亀戸の浅間神社に残る富士浅間信仰の遺跡調査により、多くの事実を解明され、教示を受けました。

私は、先生の研究者としての姿勢だけでなく時代と環境の中で生きる

庶民も改めて教えられたと思っております。先生のお姿を偲びつつ、心から冥福をお祈り申し上げます。

平野榮次先生のご逝去を悼む

江東区文化財保護審議会

会長 清水眞澄

今年1月25日の文化財審議会を、先生はお休みされた。その前の12月の審議会では、ご出席の予定とうかがったが急遽出席できなくなったとの報告があった。でも、その時はまさかこんな事になるうとは思っていませんでしたし、今もすぐお隣に座っておられるような気がしてならない。先生は、平成4年4月から江東区の文化財審議会の委員としてお勤めいただき、現在は副会長として、いたらぬ私をお助けいただいたことは勿論、江東区の文化行政全般にお尽くしいただいたというのが実感である。

「下町文化」季刊に

これまで「下町文化」は月刊でしたが、次号から季刊になります。季刊ということ、春（4月末）・夏（7月）・秋（10月）・冬（1月）の年4回の刊行です。ページ数は8ページに増えますが、全面モノクロに

る。

先生は、昭和25年に日本大学の史学科をご卒業されてから、ずっと母校に奉職される一方で民俗学のご研究に専心され、数多くのご論文や報告書を発表するとともに、東京都文化財保護審議会委員を初めとする江東区をはじめ品川区、江戸川区、大田区など文化財の委員をお勤めになられて、文化財の保護にお力を注いでこられた。経歴をうかがうと、研究職でない職場で長年にわたってご研究をなされ、今日の成果を上げられたとのことで、穏やかなかに強い信念を垣間見ることができ、心から尊敬の念をいだいていたものである。浅間神社をはじめ、調査にご同行いただいた際の情熱に溢れたお話ぶりが今も耳から離れない……。心から哀悼の意を表するものである。

なります。本紙がモノクロになったからといって、下町の文化が色あせることのないよう、内容豊かな紙面づくりを目指したいと思います。

季節の移り変わりとともに文化の香りをお届けする「下町文化」、今後ともよろしく願います。

（編集 K）

芭蕉記念館から

ジュニア俳句教室

日時 4月10日（土）午前9時30分より11時30分（集合9時20分）

会場 2階研修室

内容 俳句をつくってみよう

対象 区内在住の小学生30人（先着順）

費用 無料（筆記用具持参）

締切 開催日の前日

申込 窓口または電話で

◇芭蕉記念館

江東区常盤 1-6-3
☎（3631） 1448

工 匠 館 から

伝統の技 実演公開

工 匠 番 館（森下文化センター内）

で行っています職人さんの今後の実演日程は次のとおりです。

3月21日 更紗染 更 濱

4月4日 漆 工 近藤 良市

4月18日 足袋製作 箕輪庄太郎



*時間はいずれも午後1時～3時

旧大石家住宅から

友の会会員募集中

教育委員会

では、旧大石家住宅の保存活動を行う「友の会」の募集をしています。

活動時間は午前9時30分から午後4時30分ですが、都合によって2～3時間の活動になってもかまいません。

参加希望の方は、次の要領で申し込んでください。

応募方法 所定の申込用紙に、必要事項を記入の上、生涯学習課文化財係まで持参または郵送。

申込用紙の配付場所 旧大石家住宅（南砂5-24仙台堀川公園内）および区役所文化財係

締 切 3月26日（金）まで

応募資格 区内在住の方に限る。平日（月～金曜日）のいずれか1日の活動に参加可能な方。

※応募された方は、4月26日（月）に研修会を行います。

問 合 先 生涯学習課文化財係



研修会の様子

伝統文化を伝える

工匠の“技”を記録

教育委員会では、今年度2本の記録映画を製作しました。仕舞袴製作の杉浦武雄氏と、木工（襖・櫓・襖）の鈴木延坦氏です。工匠たちのすばらしい伝統の“技”が映像化されています。次に、今回撮影した映画の内容を簡単に紹介しましょう。ここで紹介する映画フィルムは文化センター、ビデオは文化財係でそれぞれ貸し出しをおこないます。

仕舞袴製作

杉浦武雄（深川2）

仕舞袴とは、能楽や踊りのときには袴です。



杉浦武雄氏は、大正3年に現千代田区

神田で生まれ、昭和2年に和裁仕立業を営んでいた父健吉氏に弟子入りし、帯、袴の技術を習得、仕舞袴の仕立ても扱ってきました。杉浦氏は、和裁の技術の保存と普及、後進の指導に努め、平成9年に江東区優秀技能者として表彰されました。

材料は、袴地の反物、腰板（桐材）、腰ペラ、絹糸、木綿糸、帯シンなどです。道具は、裁ちバサミ、丸裁ち包丁、モノサシ、ヘラ、チャコ、ア

イロン、霧吹き、絹針、木綿針、目打ち、ヤットコを使用します。

工程は、まず注文主の身長と胴回りの寸法を取り、寸法に合わせて生地を裁断します。片身ずつ絹糸で縫い合わせていきます。ササヒダ・ナゲを折り、糸でとじ付けます。前ヒダをアイロンで形づくり、めくれなように糸でとじ付けます。シンを入れた前・後紐を取り付けます。桐の板をシンとした腰板を木綿糸で付けます。最後に、腰ペラを腰板の後側中央に縫い付けて、完成です。

木工（襖・櫓・襖）

鈴木延坦（新大橋3）

鈴木延坦氏は、昭和16年生まれ。昭和21年、父利享氏とともに愛知県安城市より現在地に移り、中学卒業後、襖業を営む父について技術を習得しました。今回の映画では源氏襖

の櫓と襖を作っていました。

材料は、杉材（主に秋田杉）、竹クギです。道具は、物指、曲尺、指金、ハタガネ、鉋、ケシキ、ノミ、鋸、金槌、釘締め、糊などです。

襖の工程は、まず現場の敷居の寸法を取り、襖の枚数に応じて一枚ごとの大きさを割り出します。杉材を寸法に合わせて表面を削り、組子（格子状の棧）や框（周囲の枠）、引手板などの部材を作ります。組子を縦、横に組むための溝を削り、組み合わせます。框と組子は竹クギで留めます。最後に、現場の敷居に合わせて調節します。

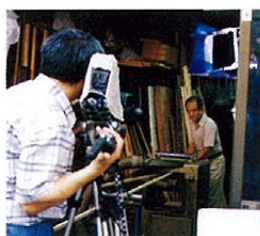
襖の工程は、角材を粗削りし、上棧、下棧、縦の櫓（柱側をドブ、内側の重なる方をマス、襖の中央部の合わせ目で重なりを持つ櫓を定木という）の部材を作ります。組むための溝や、定木のフトコロ・掘付きは、ケシキで引いた二本線の間をノミで削り、鉋で仕上げます。



記録映画上映会

教育委員会

では、左記のとおり、記録映画上映会を行います。



今年度新たに製作した2本の記録映画と、1・2面でも紹介しましたが、3月20日（土）から4月4日（日）まで工匠式番館（森下文化センター2階）において企画展を開催する大岩仲治氏（漆工）の記録映画を上映します。

工匠たちの伝統の技の記録を、作品の展示と合わせてこの機会にぜひご覧ください。

日時 4月2日（金）

午後6時30分から8時

場所 森下文化センター

4階AVホール（入場無料）

上映作品

仕舞袴製作

木工（襖・櫓・襖）

漆工

問合先 生涯学習課文化財係

☎（3647）9111

（内）3362

杉浦武雄

鈴木延坦

大岩仲治